文学研究科入試問題 解答例・出題意図

心理科学領域 ＜博士課程後期課程・正規学生(一般)＞

【専門外国語科目】

■解答例

【問Ⅰ】

受験生各自の研究内容に依存するが、解答例として以下に1つあげておく。

The aim of my master's thesis was to investigate personality similarity between dogs and their owners. I conducted both paper-based and web-based surveys targeting households currently keeping dogs, using the Big Five personality scale to assess both human and dog personalities. The paper-based survey showed significant positive correlations in Agreeableness, Neuroticism, and Conscientiousness, while the web-based survey revealed significant positive correlations in all five subscales. These correlations were not affected by the dog’s or owner’s age, dog’s sex, or length of ownership. To examine the objectivity of owner ratings, dog trainers also evaluated the dogs. Results suggested that trainers perceived traits like Extraversion and Neuroticism as opposites, indicating a different perspective from owners. Overall, the findings suggest that dogs and their owners tend to have similar personalities, likely because owners choose dogs resembling themselves from the outset.

【問Ⅱ】

省略

■出題意図

【問Ⅰ】

心理科学分野では国際会議や国際誌で研究成果を発表することが期待されています。この問題は、自分自身の研究を英文で簡潔に説明できる語学力を確認するものです。

【問Ⅱ】

心理科学分野では英文論文を多数読むことが期待されています。この問題は、論文要旨を速読して内容を把握する力を確認するものです。

【専門科目】

■解答例

【問Ⅰ】

心理学が科学として成立するためには、まず研究対象である心や行動を客観的に捉え、体系的に理解しようとすることが必要である。そのためには、再現可能な方法論の確立が不可欠であり、観察・実験・調査といった手法に基づいて、検証可能な仮説を立て、操作的定義に基づく測定を行い、得られたデータを統計的に分析することで、理論的な知見を導く必要がある。また、研究結果は第三者による再現が可能でなければならず、個人の主観や一時的な印象ではなく、誰もが同様に確認できる現象を扱うことが求められる。さらに、心理学は人間を対象とするため、文化的・発達的・個人的要因といった多様な変数が関与する複雑な現象を扱う。そのため、単純な因果関係だけでなく、多層的で柔軟な理論構築が必要となる。こうした科学的アプローチを通じて、心理学は経験則や常識を超えた実証的知見を積み重ねる学問としての地位を確立することができる。

【問Ⅱ】

臨床心理学における介入や治療を効果的に行うためには、基礎心理学の知見が不可欠である。たとえば、条件づけ理論に基づく行動療法では、古典的条件づけやオペラント条件づけの原理が活用されており、不安障害に対する曝露療法では、恐怖刺激と安全な状況を繰り返し結びつけることで恐怖反応を弱めることができる。また、記憶のメカニズムに関する知識は、トラウマ記憶への介入や認知行動療法における再評価作業に役立つ。さらに、注意や知覚に関する研究成果は、解離や幻覚といった症状の理解と対応に貢献する。その一方で、基礎心理学の理解が不十分な場合、非科学的な方法や誤った解釈に基づく介入が行われるリスクがある。たとえば、強化や罰の作用を理解せずに不適切な指導を行えば、かえって問題行動を悪化させる可能性がある。また、記憶の可塑性を軽視すれば、不正確な記憶を支持しクライエントに悪影響を与えるおそれもある。したがって、臨床実践においては、基礎心理学の知見を十分に踏まえ、科学的根拠に基づいた介入を行うことが極めて重要である。

■出題意図

【問Ⅰ】

この設問は、受験生が心理学を単なる常識や経験則の寄せ集めではなく、科学的探究に基づいた学問として捉えているかを確認することにあります。具体的には、以下のような力が問われています。(1) 科学的思考への理解：この問題では、心理学が他の自然科学と同様に、観察、仮説、検証、理論の構築というサイクルに基づいていることを理解しているかが問われています。つまり、「心理学を科学と呼ぶために必要な条件（例：客観性、再現性、操作的定義など）」を説明できるかどうかが焦点です。(2) 方法論的リテラシー：心理学における研究法や測定、統計的分析の役割を理解し、それが科学的知見を支える基盤であると認識しているかを確認する意図があります。これは、実証的なアプローチに対する理解を評価することに他なりません。(3) 心理学の独自性と限界の認識：心理学は人間の主観的経験や行動の文脈依存性を扱うという特性があります。したがって、「科学として成立するための普遍的条件」と「心理学の特殊性」をどの程度うまく説明できるかも、評価のポイントです。(4) メタ認知的視点：受験生が「心理学とは何か」「どのような立場の学問か」

というメタ的な視点を持ち、それを言語化できるかが試されています。これは、専門家として心理学を説明・応用する場面で不可欠なスキルです。この設問は「心理学という学問の基盤に対する理解」と「科学的な態度・思考様式」を受験生がどの程度獲得しているかを測る、基礎的かつ重要な確認問題です。

【問Ⅱ】

この設問は心理支援者に求められる「科学的根拠に基づいた実践（evidence-based practice）」の重要性を理解しているかどうかを評価することにあります。具体的には以下の点が問うています。(1) 基礎心理学と臨床心理学の接続の理解：学習心理学、生理心理学、認知心理学などの基礎的な理論・知見を、臨床場面にどのように応用できるかを具体例とともに説明できるかを問うています。(2) 実践におけるリスクへの自覚：臨床実践において、基礎理論の理解不足がどのような問題や倫理的リスクを生むかを想像・説明することで、実践者としての責任感や科学的態度の有無を評価します。(3) 批判的思考力と応用力：単なる知識の暗記ではなく、「知っていることを臨床の現実に応じて柔軟に応用し、かつその限界も理解できる」能力があるかを見極めます。このように、この問題は、科学的知見を臨床にどう活かすかを考えられる、実践と理論を橋渡しする力を持った心理専門職を育てたいという、教育的なねらいを反映しています。